

## 平成15年度事務事業評価表

担当	産業環境部	清掃課	内線等	8007
事業コード		事務事業名	クリーンセンター施設運営管理事業	
根拠法令等	廃棄物の減量及び適正処理に関する規則	A法令	B条例	C規則 Dその他 Eなし

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
人と自然が共生する潤いあるまちづくり	廃棄物

### ②事務事業の内容

対象（受益者）	市民のために
手 段	クリーンセンター（可燃ごみ焼却施設部門）を合理的な管理運営をすることによって
想定する成果	一般廃棄物の適正な処理を達成する。

### ③事業の概要

項 目	平成14年度実績（円）	平成15年度実績（円）	平成16年度計画（円）
トン当たり収入	1,827	1,788	1,640
トン当たり処理費	20,445	19,098	19,128

### ④成果指標

成果指標名	①	②
	トン当たりの処理経費（収入比率）	設備の事故数（件数）
成果指標の説明	収入単価/処理単価×100（%）	設備の事故数（件数）

### ⑤事業の進捗状況

（一般会計）

（千円）

		平成14年度決算	平成15年度決算	平成16年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	8.57%
	実績	8.93%	9.36%	—
成果指標 ②	計画	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	実績	0 (0)	0 (0)	—
事業費	事業費	584,369	559,647	573,537
	人件費	25,615	25,163	26,730
	(人数)	3.1	3.1	3.2
	合計	609,984	584,810	600,267
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他	54,545	54,760	51,461
	一般財源	555,439	530,050	548,806

### ⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	クリーンセンターとしての機能は十分達成している。 また設備の事故も、市民の協力、職員及び設備運転委託業者の努力等により開業以来無事故を達成している。
経済効率性	2	2	家庭ごみの処理は自治体の責務でありその費用も公費やむ得ないところであるが、受益者負担の考え方をより取り入れた方向が要求される時が来たのではないかと。特に事業者は、処理について自らの責任で行わなければならないことになっており、早急に検討を要する。
事務効率性	2	2	違反ごみ阻止のために人員配置や啓発作業がある。市民の協力、モラルの向上で効率の改善可能。
必要性	3	3	法・条例の主旨からも市が実施すべきである。
小計	9 / 12 満点中	9 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	ごみ出しルールについて、ほとんどの市民から理解・協力を得られているが、ごく一部身勝手な者もいる。
合計	11 / 15 満点中	11 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	大気汚染その他環境問題の点から必要であるが、建設時に地元と合意した排ガス基準を満たすために、また施設の延命化の点などにおいても市民の協力は欠かせない。施設は機械物で、経年とともにその修繕費の増加は避けられない。 その中で事業系ごみの経費負担については特に再考すべき点がある。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

事業系ごみ搬入者の搬入規格指導

⑧今後改善すべき点

ごみ処理経費の受益者負担の考えから、有料化を検討すべきである。特に焼却前処理が必要なごみ（チーズ、畳、カーペット等）については、公平な負担を求めため、前処理費用の徴収を早急に創設すべきである。  
これらの負担割合等については、市の方針が必要となる。

⑨平成17年度予算に反映する項目

⑩組織、人員に関する提言

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

## 平成15年度事務事業評価表

担当	産業環境部	清掃課	内線等	8007
----	-------	-----	-----	------

事業コード		事務事業名	一色不燃物最終処分場運営管理事業		
根拠法令等	蒲郡市廃棄物の減量及び適正処理に関する規則		A法令	B条例	C規則
			Dその他	Eなし	

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
人と自然が共存する潤いのあるまちづくり	廃棄物

### ②事務事業の内容

対象	市民のために
手段	ごみ処分場の合理的な管理運営をすることによって
想定する成果	不燃物の適切な最終処分を図る。

### ③事業の概要

項目	平成14年度実績	平成15年度実績	平成16年度計画
処分量	1,011	1,289	1,200
草木利用量/ 草木持込量 (トン)	873/1,433	625/1,320	660以上/1,320

### ④成果指標

	①	②
成果指標名	ごみ1トン当たりの処理費	草木チップの再利用率(%)
成果指標の説明	管理費(千円) / 処分量(t)	再利用量(t) / 搬入量(t) × 100

### ⑤事業の進捗状況 (一般会計)

		平成14年度決算		平成15年度決算		平成16年度予算	
成果指標 ①	計画						35
	実績	66		34			
成果指標 ②	計画						再利用率50%以上
	実績	再利用率39%		再利用率47%			
事業費	事業費	55,413 [68,836]		32,037 [42,285]			30,022
	人件費	11,568		11,694			11,694
	(人数)	1.4		1.4			1.4
	合計	66,981 [80,404]		43,731 [53,979]			41,716
財源内訳	国						
	県						
	市債						
	その他						
	一般財源	66,981 [80,404]		43,731 [53,979]			41,716

H14年度の事業費には水処理施設増設等23,360千円を含む。また、[ ]内は草木破砕委託費含む。

### ⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	草木チップの再利用率が低い
経済効率性	2	2	草木破砕業務、水処理施設維持管理業務の直営化による委託費の削減
事務効率性	2	2	現地にて処分場の搬入・排出量の統計を作成している分、事務所での作成手間が省けた。
必要性	3	3	処分場閉鎖までの管理責任がある。
小計	9 / 12 満点中	9 / 12 満点中	
市民参加度	1	0	一色不燃物最終処分場用地対策委員会にて関係事項を協議している。
合計	10 / 15 満点中	9 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	処分場閉鎖までには長い年月がかかるため、管理においては経済的な方法を取ること。自然災害廃棄物残物の処理を受け持つことにより予想外の埋立量の増加となる。
------	---	---	---

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

草木破砕業務、水処理施設維持管理業務の直営化による委託費の削減

⑧今後改善すべき点

①水処理施設の維持管理は、今後数十年は続くため現状の施設を使用した場合その管理費・修繕費等は無視できない額となる。経費削減の方法として、清香園の水処理施設の改修計画のなかで希釈水として処分場浸出液原水を使用してもらうことが合理的と考えられる。これにより、維持管理費はかなり削減できる。②処分場の埋立容量を現状の計画から見直し余裕ある処分場として位置付けすること。そのためには地元及び県に了承（変更届け等）を求めること。これにより将来の処分場確保の時間的ゆとりができる。③草木破砕機使用に対する料金徴収を新たに設けるべきである。また破砕機の寿命から更新する時期が近いと思われるが、その経費（購入費・維持費）に対する負担についての考えが必要となる。④草木破砕チップの再利用の増量を図る工夫が必要。

⑨平成17年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

## 平成15年度事務事業評価表

担当	産業環境部	清掃課	内線等	8007
事業コード		事務事業名	リサイクルバザール実施事業	
根拠法令等			A法令 B条例 C規則 Dその他	Eなし

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
人と自然が共生する潤いあるまちづくり	廃棄物

### ②事務事業の内容

対象（受益者）	蒲郡市民に
手 段	再利用可能な家具や日用品を斡旋することにより
想定する成果	粗大ごみの発生抑制と資源の有効利用を促進する。

### ③事業の概要

項 目	平成14年度実績	平成15年度実績	平成16年度計画
入場者数	980	1,005	1,100
出品点数	98	85	90
買上点数	97	84	90
売上金額（円）	39,900	29,500	31,000

### ④成果指標

成果指標名	①	②
リサイクル率		出品点数増加率
成果指標の説明	買上点数/出品点数数×100	出品点数/前年出品点数

### ⑤事業の進捗状況（一般会計）（千円）

		平成14年度決算	平成15年度決算	平成16年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	100.0%
	実績	98.9%	98.8%	—
成果指標 ②	計画	—	—	105.9%
	実績	91.5%	86.7%	—
事業費	事業費	4	3	4
	人件費	4,132	4,211	4,177
	(人数)	0.5	0.5	0.5
	合計	4,136	4,214	4,181
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	4,136	4,214	4,181

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	リサイクルバザーとしての機能が十分発揮され資源の再利用に結びついている。
経済効率性	2	2	粗大ごみの有効利用や啓発、資源化と言う観点からすれば見合った成果が上がっている。
事務効率性	2	2	実施に当たりリサイクル品の選別には長時間を要する。
必要性	1	1	ごみの減量や資源の再利用（リサイクル）の上からも実施の必要があるが民間でも対応できる事業でもある。
小計	7 / 12 満点中	7 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	実施については一般市民の参加が年毎に増えている。
合計	9 / 15 満点中	9 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	粗大ごみ減量やリサイクル推進、環境保全のためにも積極的に事業を推進していく必要がある。
------	---	---	---

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

展示場所・抽選参加方法の見直し変更を実施し、参加者の利便を図った。

⑧今後改善すべき点

資源のリサイクルへの啓発推進と不用品交換会等への積極的な取り組みを図る必要がある。実施については職員の出勤等人員の掛からないよう削減を図る必要がある。

⑨平成17年度予算に反映する項目

予算としては、人件費と消耗品のみであり反映する項目はなし。

⑩組織、人員に関する提言

長期に亘る収集や事前の展示会や事後の引き取りまでの間、職員の出勤を必要とし事業に係わる人員の削減を検討する必要がある。

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載